



第53号

ぽっかぽか

函南病院新豊部



変革



院長 久直史

明けましておめでとうございませう。高齢化、人口減の波は既に押し寄せており、いろんな意味での変革を迫られています。この波は地方から始まってはいませんが、大都市にも大きなうねりとなって押し寄せようとしています。いずれにしても高知県がその先頭を走っていることは疑いもありません。今年は6年に一度の医療・介護の診療報酬同時改定の年でもあり既に様々な予測が飛び交っています。

連携

そうした中であって、一病院としてできることはや

はり地道に地道なことをしてゆくといいかもしれません。キーワードはやはり「連携」でしょうか。基幹病院にする後方医療機関にする単一施設で完結できる時代ではありません。当院でも昨年は積極的連携がスタートした年でもあったと思います。これまでも勿論医療連携は行ってきてはいたのですが、「さあどうぞ」という姿勢は示してはいても声かけを待っているところがあつたかもしれません。今は、患者さんが実際に転院といった移動がある前にこちらから積極的に出向いてスムーズな連携をとるよう努めています。こうした連携を担うのは看護師の力が大きく、とくにがん患者さんの多い当院ではがん看護専門看護師や連携担当はフル稼働状態で早急な体制の強化が求められています。

地道な努力

はり地道に地道なことをしてゆくといいかもしれません。

昨年の総選挙では政権与党が安定多数を得る結果となりました。外では核を振り回す北朝鮮や、覇権の拡大を狙う中国などの不安定要因もあり多難な年となりそうですが、我々は今年も地道に努力を続けてゆくといいかもしれません。

何でもできる開業医

「よくある病気にきちんと対応する」こと、かかりつけ医からも基幹病院からも信頼される「何でもできる開業医」としての立ち位置を目指し続けます。

2018年がよい年となりますよう院内外の皆さんのご協力をお願い致します。



■病院理念

1. 私たちは地域にとってよりよい医療・介護を目指し努力を続けます。
2. 患者様に信頼される技術と暖かいホスピタリティを提供できることが私たちの目標です。
3. 私たちは医療人として楽しく働ける職場作りを目指します。

■病院基本方針

1. 我々は病気 (Common Disease) を安全・快適に治療することを目標としています。
2. 我々は当院の専門分野での高い医療レベルを維持することに努めます。
3. 我々は地域の他の医療機関・施設との連携を大切にします。
4. 我々は個人の尊重を重んじ、人生の終末期に対して入院および在宅医療・介護を通じて取り組みます。

九州北部豪雨ボランティアを経験して

西2階病棟 介護福祉士 山岡



集中豪雨1週間後の7月12日、友人2人と大分県日

田市のボランティアへ参加してきました。男3人1泊2日車中泊の旅、しかも出発当日は夜勤明けという超強行日程。夜勤が終わりいざ出発。経路は四国と九州を最短で結ぶ愛媛県三崎、大分県佐賀関フェリー航路、航



行中70分間の仮眠タイム。片道390kmの旅でした。

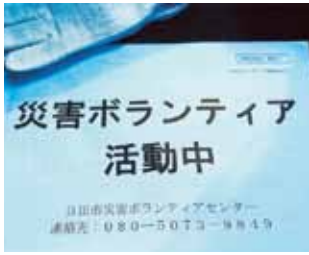
ボランティアへ参加した動機はというと、そもそも介護の仕事がしたいと思った動機にまで遡ってしまいます。それは、6年前にあの東日本大震災のボランティアへ参加したことがきっかけです。その時に入ったベースキャンが特別養護老人ホームの広い駐車場に設営されました。その2軒隣の建物は仮

の遺体安置所でした。あの光景は実際に自分の目で見た人にかわからないだろうと思います。あの経験で営業職一筋で働いていた自分の人生観が180度変わってしまいました。幼少期からおばあちゃんっ子で育ってきたこと、体育会系でずっと育ってきたことで自慢の体力を活かし生活弱者のために働こうと思えました。

あの時から座右の銘は「一生一瞬、一瞬一生」です。人間の一生なんて一瞬であり、また、一瞬の出会いや経験が一生のものになるという意味です。西2



階の職員なら知っていますが、僕は誰からも言われるように本当にアクティブ人間なんです。とにかく1秒後に後悔しないこと。1秒も無駄にする時間なんてありません。その時その時を一生懸命楽しむこと。仕事もプライベートも考え方は一緒です。去年は熊本地震のボランティアへも参加してきました。そして今年…。まさかまた九州へ行くことになろうとは…。やはり百聞は一見にしかず。ボランティア参加者は手続き後は基本的に最寄の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入します。(350円)その後、マツチング↓グループピング↓活動という流れで進んでいきます。災



今回は7月酷暑の中での水害でしたので臭いなどもきつく暑さとの戦いの中、とにかく大変でしたが、被災者(依頼者)の気持ちに寄り添い、限られた時間の中で微力ながらも復興へ向けたお手伝いができたのなら幸いです。

毎回そうなのですが、マスメディアでは伝わらない現地の声というのがたくさんあります。そういった中でSNSの重要性をすごく感じる事ができました。デマや誤情報といった問題も抱えています。その特性上、ITネットワークを利用したり、アルタイムでの連絡・情報発信収集に大きな役割を果たしています。

害地でのボランティアの心構えとしては大きくわけて3つだと思います。「1自分で責任を持つこと 2被災者の気持ちを考えてること 3自分の安全を考慮すること」

山岡さんちの
ルイ

ルイ
1オ7ヶ月
オスだよ

ハロウィン
だヨー



メリークリスマス
決まってるかな

ビールもペロッ
いつもご主人様と
一緒なんだあー



坂本さんちの
マロン

マロン(女の子)
H28.12.15生まれ
4月16日に
家族になりました

父 ポメラニアン
母 チワワ
ポメチワです

Uchinoko Jiman

うしゅんまろん



お行儀よく
できるよ



お気に入りの場所♪





9月13日、介護病棟3階ホールにて敬老会が開催されました。最近ボランティアの方による演奏会を開くことが多かったのですが、今回は患者さんと家族さん参加型のゲーム大会です。ペットボトルを利用したボーリング大会、紙風船リレー等を行い、上位者には手作りのメダルも贈られ、一緒にお菓子を食べたりと皆で楽しく騒いだ時間となりました。

介護病棟 坂本

クリスマス会

当緩和ケア病棟一年のしめと言っても過言ではないクリスマス会が2017年12月22日(金)行われました。今年は患者様、その御家族の参加も多くとてもにぎやかで楽しいクリスマス会でした。ちょっぴり心配そうに、でもとても優しい表情でスタッフによるハンドベル演奏を見て下さった方やフルーツやウクレレの演奏に合わせて、楽しそうに手拍子をして下さった方、御家族と食事をしながら楽しまれた方、おいしそうにクリスマスケーキを召し上がっていた方、患者様方のお顔を見ながら、この日を無事迎えた安堵感が胸がいっぱいになりました。スタッフ一同、準備から本番まで全力で取り組みました。業務後や休みの日に一生懸命ハンドベルを練習してくれていたスタッフです。全ては患者様の為に、その笑顔の為にがんばりました。そのお一人お一人の様子を忘れません。楽しいひとときを共に過ごせた事、とても幸せに思います。

緩和ケア病棟 藤田



土佐の夢話想2017へ参加して

昨年も『灯りを、未来に。』をテーマに、高知市鏡川・みどりの広場で開催された土佐の夢話想2017。

高知県のがん患者さん・ご家族・医療従事者の壁を取り払うことを目指し、がん撲滅・啓発・予防に祈りを込めます。そして旅立たれた方々のご冥福を祈り、それぞれが生きる意味を考える時間を共有するチャリティイベントです。

一般社団法人・高知県がん患者支援推進協議会主催で、少しずつですが高知県民のみなさんにも広く知っていただけるイベントへと成長しています。

がん教育に力を注ぎ、毎年高知県内の高校生や大学生、一般の方にも分かりやすい形で、医師やがんに関わる立場の方にお話をいただいています。

迫力あるゴスペルやダンス、様々な素敵な楽器演奏にも心を打たれます。工夫を凝らした美しい灯りの演出や、飾らない言葉と丁寧に描かれた絵の灯籠が、鏡川の水面を静かに流れる情景は、毎年本当に感動します。

おいしい食べ物のお店やかわいい雑貨屋さん、癒しのマッサージなどもあり、ちょっとお散歩がてら、次回開催時は参加してみてください。

例えがんになっても、みんなで支え合える暮らしやすい高知県であるように、わたし達もこの活動を続けます。

緩和ケア病棟 西村

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017高知 ~未来に向かって一緒に歩こう!~に参加して

2017年11月3・4日に高知大学医学部グラウンドで、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017高知が開催されました。2017年でリレー・フォー・ライフ・ジャパンは開催10周年を迎え、全国49ヶ所でのイベントが開催されました。

リレー・フォー・ライフ(RFL)は1985年にワシントン州タコマの腫瘍内科医が、「がん患者は24時間病気に向き合っている」患者さんの勇気を毎日見ていて自分も何かをしたいとの思いから、アメリカ対がん協会のために寄付を集めようと24時間走ることから生まれました。

RFLではがん患者さんや支援者など様々な人が仲間チームを組んでルミナリエで作られた道を歩き、シンボルたすきを24時間つなげていく「いのちのリレー」です。イベントも盛りだくさんで、4月のキックオフから実行委員会では準備を重ね、2日間で延べ2,300人もの方が参加し「いのち」をつなぎました。

院南病院も富永師長さんの統率力を得ながら参加しました。24時間のリレーウォークはできませんでしたが、院長や久晃生先生、事務部長など多くの職員の方に参加いただき、参加賞をいただくことができました!! 各自持ち寄った差し入れから、高い女子力も明らかとなり、皆で美味しくいただきました。このイベントは当院の職員であった(故)笹岡さんが積極的に取り組んでいたこともあり、大切な仲間・笹岡さんを偲んで歩かれた方も多かったのではないかと思います。



▲ルミナリエで作られた道

“One World One Hope”ががん患者さんの希望を支え、共に歩み、寄り添えるようにしていきたいです。

がん看護専門看護師 弘末 美佐

発行 特定医療法人久会
 編集 院南病院
 院南病院新聞部
 編集長 久直史
 高知市知寄町一丁目一五
 電話 〇八八八八二二六

